

やまごみかわのかみやかた  
山川三河守館跡

やまご  
山川氏は、富樫氏の家臣として仕え、本拠地はその  
名字から、現在の金沢市やまご山川町周辺といわれています。

山川三河守は、守護富樫まさちか政親の守護代として活躍した人物で、その館は、押野館と富樫館の間と伝えられています。江戸時代後半の書物『いしかわほうこゆうき石川訪古遊記』では、山川三河守館は富樫館の北西に位置し、わずかに土居が残っていると記されています。

1993年（平成5）、館推定地の一部で発掘調査が行われ、室町時代の遺構・遺物を発見しました。館に直結するものは確認できませんでしたが、山川氏が活躍した時代の遺跡が見つかったことは大きな成果といえるでしょう。



調査地全景

富樫館の西方約100mにある通称「馬替道」と呼ばれる道路の下で行われた発掘調査では、14～15世紀の道路跡と、道路に面して宅地が広がっていることがわかりました。宅地は小規模な溝で複数に区画され、区画された敷地内からは土坑群が確認されました。土坑からは大量の鉄滓が出土し、鉄製品の加工が行われていたと思われます。

遺構の様相や遺物の内容などから、この地は市場と推測でき、その範囲は、現在の本町通りまで伸びていたと推測されます。

このように、守護所富樫館の周りには、都市的な様相をもった城下町の姿を見ることができます。